

今月 8 日参議院選 2 日前に、安倍元首相の銃撃事件があり、日本に衝撃的なニュースが流れ世界をも震撼させました。情報が定かではない事件発生当初は、政治的テロか？という憶測も流れました。この憶測は、現在の世界情勢と過去の日本の社会状況とを鑑みると、日本も戦争への道に行くのではないかという危険性を指摘した内容のものでした。

その後、犯人の供述から事件の全容が紐解かれているところですが、人の命を奪ってしまったという結果に対しては、誰しもが許しがたい行為であると憤っているところです。また、この事件や犯人のことは、それぞれの立場でそれぞれの人の考え方や感情で様々な情報が飛び交っているところなので、現段階では真実は何かははっきりしていません。

私が思うことは、自分が辛く苦しんでいるときに相談する人がいなかったのだろうか、SOS を出せずに自分一人で抱え込んでしまったのではないだろうかとの想像です。辛く苦しい胸の内を SNS だけに頼るのではなく、対面でお互いに言葉を交わしていたのなら、追いつめられてしまう前に善後策を考えられたはずと思うのです。

加えて、犯行後に残される人のことをなぜ想像できなかったのだろうかとも思いました。逆境や不平不満の渦の中で、自己中心のかつ周りの人の気持ちに寄り添えない人であったのではないかと感じてしまいます。

もう一つ思うことがあります。辛く悲しいときに彼は涙を流さなかったのだろうかということです。泣くことによりセロトニンという脳内物質が活性化されます。これにより、ストレスに対抗し精神の安定が図られるそうです。

以上から、私は辛く苦しいときには、気持ちを聞いてもらったり涙を流したりすることが、事態を悪化させないための一つ的手段だと考えるようになりました。

さて、このような暗いニュースの中、私に活力を与えてくれるのが、今年の終業式でも話したとおり、メジャーリーグのロサンゼルス・エンジェルスに所属する大谷翔平選手の活躍報道を知るときであったり、我が西中を評価し褒めていただいたりするときです。

大谷選手の人間的素晴らしさの一つに「さりげないゴミ拾い」があります。彼はその理由を「人が捨てた幸運を拾っているだけ」と答えています。少し調べてみると、実は大谷選手は意識してグラウンドのゴミを拾っていたのだそうです。このきっかけとなったのが 2015 年、日本にいたときのチームの大先輩、侍ジャパンの監督にもなった稲葉篤紀選手が、ベンチ前

のゴミを拾っている姿を見て感動したから、それを真似るようになったというのです。

そして大谷選手は、このことを「人が捨てた運を拾っている」と表現し、彼にとっては当たり前になった行為が、自分自身の平常心を保ち、冷静にプレーするためのキーアクションにもなっているのだそうです。

これはまさに、松井秀喜さんの座右の銘である「心が変われば 行動が変わる 行動が変われば 習慣が変わる 習慣が変われば 人格が変わる 人格が変われば 運命が変わる」そのものであると思いました。

また、大谷選手は先輩の行動を真似たと紹介しましたが、「学ぶ」の語源は「真似ぶ」とも言われています。自分自身を成長させたいければ、目指したい人の行為や言動などの良さを真似たり、思考・考え方から学んだりすることが、自分自身を向上させることにつながると思います。

大谷選手には大谷選手の生き方があります。大勢の人たちからの声援があり、様々な人たちに支えてもらいながら、大谷選手を知る人たちに活力を与えています。

世の中には、地元を離れて活躍する人もいれば、地元に残って活躍する人もいます。どちらが凄いかではなく、どちらも凄いことです。

私たちは物事を白か黒かなどと二択で結論を出そうとしたり、つつい比較したりすることがありますが、このような判断基準は、人の価値観とか生き方などを狭めてしまう要因になってしまうのではないかと私は危惧しています。

話の最後です。今年も昨年同様かそれ以上に我が西中の生徒や先生方の取り組みにより、周囲から「西中いいですね」の評価を得ています。生徒会活動を筆頭に、ボランティア活動への申込みの状況や地域と関わる活動、探究的な学習への取り組みや公開授業、部活動や中体連でも吹奏楽部と3年生の吉沢選手が卓球個人戦で県大会へ出場、2年生の宮澤選手と櫛原選手が陸上と水泳の北信越大会へ出場するなど、飯田西中の名前を広めてくれました。北信越大会に出場する二人の次なるステージは長野県代表選手という立場になります。

ところで、3学年吹奏楽部壮行会のときに、「試練は、乗り越えられる人にしか訪れない」という言葉を紹介しましたが、吹奏楽部の皆さんはこのことを証明しました。また、「今ある力+ α 」の力を発揮してほしいとも伝えましたが、まさに+ α が結集したので、不運にも出場が叶わなかったパート部分をしっかりと補ったのだと思いました。

私は、「県大会出場を目指して」という目標よりも、「出場できない部員のために」という目的、部員の思いが一致することの方が、ベクトルが確かに強固に向かうのではないかと感じましたし、ピンチをプラスに転換させる考え・思考に加え、「ピンチのときこそ団結するんだ！」という吹奏楽部員の心意気というか底力を感じました。

皆さんの一番の応援団である保護者の方々の感激もひとしおだったことと思います。本当に良かった。改めて祝福します。

自分が所属する集団が活躍し、好印象や高評価をしていただけると、承認欲求と所属欲求が満たされるためか、本当に心地よくなります。皆さんに感謝です。有り難うございます。

いよいよ夏休みを迎えます。この期間は授業がない日が日常になりますので、願わくは家庭学習が習慣となり充実することを期待しているところです。加えて、新型コロナウイルス感染症第7波が押し寄せていますので、目に見えないウイルスとの闘いと健康には十分気をつけてほしいと思います。また、交通安全やインターネット等のトラブルもなく、自ら考え行動することから生まれる充実した日々が過ごせることを願っています。